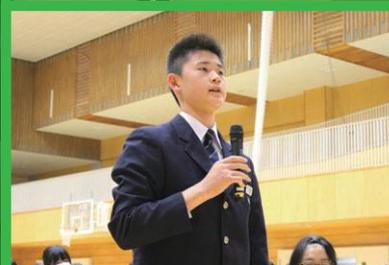


# やまがたLifeポジティブキャラバン ～山形の若者を照らす“幸せ”への道しるべ～



## 高畠町立高畠中学校



GUEST SPEAKER 講師

株式会社小嶋総本店 代表取締役社長 **小嶋 健市郎さん**

### Profile

1980年米沢市生まれ。大学卒業後、大手衛生用品メーカーに就職し、マーケティング業務に関わる。その後、アメリカにある貿易会社勤務を経て、30歳で地元に戻り、株式会社小嶋総本店に入社。2015年現職に就任し、24代蔵元となる。カーボンニュートラルの実現に向け、環境に配慮した取組みなどにも力を注ぐ。また、置賜地域における暮らしの課題を解決することを目的に、2021年に一般社団法人ウコギ社を設立。代表理事としてまちづくりにも携わっている。

ROLE MODEL ロールモデル

“当たり前”は“特別”なこと。  
本当の価値がそこに隠れている。

### 当たり前に見えることが実は特別なこと

小嶋総本店は安土桃山時代(1597年)創業の酒蔵です。江戸時代は米沢藩上杉家にお酒を納めていました。現存する酒蔵では全国で13番目に古く、400年以上の歴史を未来に紡いでいます。当社の代表格ともいえる「東光」は国内のみならず、20か国以上に輸出しています。雪国に住む私たちにとって冬に雪が降ることは当たり前のことでも、海外には「雪を見たことがない」という人たちがたくさんいます。寒さが厳しい

気候の中で丁寧にお酒を造っていること自体が大きな特徴であり、商品を紹介するときのアピールにもなるのです。一步外に出ると、「当たり前で退屈に思える身近にあるものが、実はどこにでもあるものじゃない」ことに気づくと思います。

### 酒粕を活用してエネルギーを生む

「地球温暖化」に対して自分たちは何ができるか。これはお酒を造るうえでも大きな課題です。気候変動は日本酒の原料

である酒米の品質や収穫量にも影響を与えるため、地球温暖化はまさに死活問題。原因となる温室効果ガスや二酸化炭素を増やさないように、または減らしていかなければなりません。そのため当社では、カーボンニュートラルに取り組んでいます。具体的には、醸造過程で生まれる酒粕を発電に回して廃棄物を出さないようにし、電気として戻ってくるシステムを導入、飯豊町にあるバイオマス発電所の協力を得て、牛糞に酒粕を混ぜてメタンをガス発生させ電気をつくることで醸造する際に排出される二酸化炭素を実質ゼロにしました。置賜地域は電気を生み出す場所として非常に優れた、全国でも先駆的な地域。環境問題に関して、日本はまだまだ危機意識が非常に低いと思うので、一人ひとりがエネルギーに関心をもち、自分の行動を見直していくことが大切です。

### まちの課題に取り組む「ウコギ社」

「まちづくりは行政がやってくれるもの」という、これまで当然とされてきたことが成立しなくなってきました。すべて頼るのではなく、民間企業として解決できる地域課題があるのではという考えのもと、同年代の経営者仲間と立ち上げたのが「ウコギ社」です。城下町の名残が点在する米沢のまちを連続性を持って楽しんでもらえるように、自治体、大学、銀行、町内会などと連携しながら活動しています。最も大きな問題

は空き家の増加。新たな活用法を真剣に考えていかなければならない時期にきています。

### 価値を知ること、山形の魅力に気づく

コロナ禍で、遠方よりも近場の名所を訪ねる機会が増え、あらためて山形の魅力を実感しています。米沢の秘湯では自然を活かして上手に演出していることに、「こういうところに本当の価値がある」と思い、感動しました。もちろん「食」に関しても。米に関わる仕事柄実感するのは、この地域には価値のある米をつくっている生産者が多くいるということ。全国を見れば、すべての酒蔵が米の産地にあるわけではないので、そうした地域の同業者からはとても羨ましがられます。仕事を通して自分の住むまちの価値に気づかされることが多々あります。



## MESSAGE

### メッセージ

# 未来を生きる中学生へ 他人軸ではなく、自分軸を持ってチャレンジを

## 努力は夢中に勝てない

日本は集団として協調性が高く、社会も学校も秩序に守られています。言い換えれば同調圧力が強く、周りの基準で自身の行動を評価してしまい、自分のストレートな感情を拾えなくなってしまうという捉え方もできます。「やりたくないけれど、みんながやっていることだから」という気持ちだけで行動していませんか。もちろん、それほど興味がなく始め

たことであっても、一生懸命努力して取り組んでいくうちに花が開くということは多くの人を経験していること。でも、努力は夢中に勝てない。本当に好きなことを夢中にやっている人は強いと思います。自分は何がやりたいのか、気づけるようになることが大事です。

## 自分が住む地域のことを知る

自分が住む地域のことをもっと知ってください。日本人は日本のことを知らな

すぎます。外国の人に会ったら、その人の国のことを聞きたいと思うでしょう。その時に「よくわからない」と答えが返ってきたらびっくりしませんか。自分の中に根ざしたものがなく空っぽだということを告白しているようなものです。地元にあるものの価値に気づけない、大切にできない人はどこに行っても尊敬されません。山形には都会にない「生産地としての豊かさ」があります。「ここには何もない」と言っている人ほど自ら探しに行こ

うとせず、そもそも何かがあるのかさえ気づいていないように感じます。

## 自分が思うほど…

人と話したり、仲良くするのはエネルギーの要ること。相手のことを知ろうとして恥ずかしい思いをしたとしても手痛い失敗ではありません。中学時代は自分自身を作り上げていく時期なので、周りの人にどう思われているかということに意識が向いてしまいがち。でも、誰もが自分のことに一生懸命で、自分が思うほ

ど周りに関心を持たれていないという前提に立って行動すれば気持ちも楽になると思います。

## 守られた世界から一歩外へ

慣れ親しんだ場所で、慣れ親しんだ仲間と不安になることもなく守られた世界。いずれは、このセーフティゾーン(コンフォートゾーン)から出ていかないと何も気づけず、進歩ありません。「失敗したけど楽しかった」「成功したけどイマイチだった」と感じる、そうした経験を重

ねることで心に響く瞬間に出会うことができると思います。中学生のみなさんは日頃の生活の中で多くのことに関心を持ち、失敗を恐れず、いろいろなことにチャレンジしてってください。

## STUDENTS' VOICE

### 生徒たちの声

わかりやすく、新たな発見や自信につながる話だと思いました。造ったお酒を御神酒として上杉家に献上していたのはすごいと思いました。

自分自身で殻を破れば新たな選択肢がどんどん増え、いろんな可能性があることを知れて、とても自信を持つことができました。

今回の講話を聞いてセーフティゾーンから一歩踏み出して外の世界を見ることの大切さを知ることができました。失敗を恐れずにたくさんのことに挑戦していきたいと思いました。

山形で生活する人、これから世界に出て活躍する人、両方に必要なスキルや、日常生活の人付き合いの中で出てくる言葉の真偽を学びました。(自分はセーフティゾーンから出る勇気がなかったけど、これから生活していくためにはたくさん失敗することも必要だと学びました。)

今までは「外に出てそのことを知る」ことが大事だと思っていましたが、自分の地元についても、もっとよく調べてみようと思いました。

地元には何も無いと思っていたけど、何があるか知らないだけで知ることが大事だとわかったし、挑戦することも大事だとわかりました。

